

# (仮称) 大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画 (案)

## 第2回検討会議 会議録

1. 日 時 平成29年11月13日(月) 15:00から17:00まで
2. 場 所 大磯町保健センター1階 保健指導室
3. 出席者 委 員 19名(欠席1名) ※出席者について別紙参照  
事務局 7名  
傍聴人 10名

### 4. 議 題

#### 協議事項

- (1) 調査実施報告
- (2) 事業コンセプト
- (3) 駅前広場及び周辺交通の現況
- (4) 駅前広場の施設計画
- (5) 旧駐輪場跡地計画

### 5. 議事経過

#### I. 開会

事務局) 本日は、各調査の結果並びに各部会での意見を報告させていただくとともに、駅前広場の施設計画を提案させていただく。盛り沢山の内容となるが、議論をよろしくお願ひする。

#### II. 検討会議 ○:質問者 ◎:答弁者

##### 【議題(1) 調査実施報告】

- ・ 大磯町が資料-1 (P1-1~) により、町民アンケート調査実施結果を報告。
- ・ ランズ計画が資料-1 (P1-3~) により、交通量調査実施結果を報告。

##### 【議題(2) 事業コンセプト】

- ・ ランズ計画が資料-1 (P2-1~) により、事業コンセプトについて説明。

〈コンセプトについて〉

- 委員) にぎわいは観光者のため、安全安心は地元の人たちのため。両者が一緒にされて位置付けがはっきりしない。地元の人々は静かな大磯を壊さないでほしいという意見

もあると思う。コンセプトとして地元と観光客をどうするか議論しないと、まとまらないと思う。大磯らしいという意味で、にぎわいは本当に必要なのか。今のままで十分魅力的なのではないか。

◎会長) にぎわいは、必ずしも外から来た人のためのものではなく、大磯に住んでいる人も、駅前を通過するだけでなく滞留して空間を使ってもらう工夫を、にぎわいという言葉で表されていると理解している。2つ目のコンセプトの大磯らしさを活かした、大人の憩いというイメージがコンセプトに反映されているのではと思う。具体の計画の中にコンセプトを読み取れる説明があると地元の方にも理解されやすいと思う。

◎事務局) 静かなところが大磯らしい良いところでもあるが、週末に外から人を呼んで大磯を知ってもらおうイベントも多く見受けられる。ハイキングで利用する方も多い。現況は歩道が狭いため、団体客が滞留し駅前が混雑している。安心安全、にぎわいという意味で、駅正面の歩道空間を確保し、人が溜まれる空間をつくろうという意図である。現在の駅前広場は駅舎前のベンチだけが休める場所となっている。歩道を広く取れば、屋根（シェルター）やベンチを設け、高齢者が休めるという意味での憩いも考えている。

### 【議題(3) 駅前広場及び周辺交通の現況】

- ・ ランズ計画が資料-1 (P3-1~) により、駅前広場及び周辺の交通の現況を説明。

(駅周辺道路の安全性の向上について)

○委員) 今回の案では、県道の拡幅は時間と費用がかかりそうということで、車の速度を抑制するという手法の整理までで終わらせるということか。

◎会長) 今回の計画の中では、拡幅という方向性を決めるのは難しいと理解している。

◎事務局) 3-3 ページの表中の実現性の検討という項目では、道路拡幅を完全に否定しないが、実現するにはかなりの期間と費用がかかる。今回の計画の中では踏み込んで結論を出すのは難しい為今回のような表現にさせていただいた。

○委員) 仮にこの計画が完成した後に、どのような状況ならば拡幅についての検討や実行がなされるのか。

◎事務局) 以前も県道拡幅の話はあった。その際は、神奈川県が現地に赴いたが、地元の合意が得られなかった経緯がある。この話を改めて進めるには、地元の合意が不可欠になる。住民の意見をしっかりと聞いて、必要かどうか時間をかけて検討していきたい。県道拡幅の検討が直ぐに始められるかどうか申し上げられないが、地元の盛り上がりや理解が必要になると思う。

◎会長) こういった条件が整えば計画に着手できるという事は、現在明言できない。拡幅が無意味ということではなく、今の状況では難しいということを理解いただきたい。

○委員) 駅前広場から国道1号までの全線を拡幅するから民家の立ち退きも含め難しいということか。現在町が管理している大磯駅前洋館の反対側のカーブを少し広げるだけとでは、考え方がだいぶ違う。ここを削って広げることは可能だと思う。町が拡

幅は難しいと考える範囲はどこか。

- ◎事務局) どのように広げるのが理想的かといった検討が必要になってくる。短期的に行うのか、時間をかけて行うのかも検討する内容である。短期的な方策として、町有地の部分を活用するのも一案かと思うが、景観的な問題もあるので、沿道の方や町民の意見も聞かなければならない。将来を見据えた検証も必要になってくると思う。
- ◎会長) 駅前を結ぶ動線として、部分的な拡幅の動線確保の効果が十分かどうかも検討が必要。全体の動線が確保出来なければ意味が無い。

〈議論のまとめ〉

- 会長) この検討の中では、全線的な拡幅は現時点では難しく、交通の静穏化でどのくらい歩行者及び自転車の安全性を確保できるのかということにフォーカスして議論していきたいと考えている。

#### 【議題(4) 駅前広場の施設計画】

- ・ ランズ計画が資料-1 (P4-1~) により、駅前広場の施設計画を説明。

〈大磯駅前・周辺の動線について〉

- 委員) 地元の人間でないので利便性は考えずに発言する。町のにぎわいの観点から、大磯漁港などへの動線をどう考えているのか。問題点は、駅前に大きな川が流れているイメージで駅から出てどの方向に進んでいいかわからない、且つ駅舎反対側の商店との一体性が感じられないこと。町の顔として整備するのであればC案が望ましいと思う。ただ、地元の方と通過動線の必要性についてどういった話し合いがあったのか。あえてC案を出した考え方を示してほしい。
- ◎会長) C案は、真ん中の中央広場は、バスは通れるが一般車は通れない為、車で駅に来る方には簡単に理解されない事は重々理解したうえでの提案であると思う。
- ◎事務局) 広域の動線計画は3-2 ページに資料がある。大磯駅からみなとオアシスまで歩いて回るというコンセプトを基に設定した動線は、自動車の一方通行規制があり交通量が少ない道路で大磯らしいまちの景観が残っている為、歩行者の動線として設定している。また、現況で大磯駅の観光案内所と大磯港にレンタサイクルがあるのでそこを起終点とした自転車の動線も考えている。
- ◎会長) 駅前広場の駅側と向かい側との連絡は、A案B案共に横断歩道を短くし、歩行者の安全性を高めると共に、連絡性、連携性を強化する考えである。C案はそれがさらに強化されるが、地元の方の意見を聞いてから進めないといけない。駅前広場の駅側と向かい側の連絡性、連携性を強化するのはA,B,C案共通の考え方である。
- 委員) 地下道をつくる案はあるのか。バスは地上を、歩行者、自転車は地下を通り、地下道で大磯の名物や歴史を見せられるようなものはどうか。
- ◎会長) 案としてあり得ないことではないが、階段なら可能だがスロープだと勾配がきつく長い距離が必要なので難しい。駅の出口が2階にあって、デッキをつくり歩行路とするならば不可能ではないと思うが、JRの駅が関係するので今回の町の計画の

中で議論するのは難しいと思う。

- ◎事務局) 大磯駅の駅舎は関東の駅 100 選に選ばれている。地元の方の愛着がある建物で、アンケート調査でも駅舎はそのまま残してほしいという意見が多かった為、駅舎はそのまま残す考えである。

〈ロータリーの島について〉

- 委員) 4-6 ページでロータリーの島を削るとあるが、ロータリーは町制 100 周年記念で作ったもので、私も関わっている。モニュメントを残すのであれば、中心性を意識してモニュメントらしい残し方をしてほしい。また、国鉄時代の記念樹は残さなくても大丈夫なのか。
- ◎事務局) 現在ロータリーには記念モニュメントと桜等の木があるが、樹木の謂れは把握していないので、後日情報をいただきたい。
- 委員) 湘南発祥の碑と避暑地記念の碑について、利用者のほとんどが駅前にあることを知らないと思うが、残して欲しい。あそこを削って、良いロータリーが作れるのかと思う。
- ◎会長) そういった意見は出ると思っていた。本当に削るならば、どう削るのかを検討し、うまく使う方法を考えるべき。そもそも削ることができるのかも含め、ロータリーについては慎重に考えたほうが良い。
- 委員) 歩行者のための安心安全はもちろん優先事項だが、未来志向の交通工学の観点から、空間の 2 重、3 重使いをして良いのではないか。自動車、自転車、歩行者それぞれの利用の多様性を残してもいいのではないか。ロータリーを A,B,C 案よりも広げていく使い方でも良いのではないかと思う。
- ◎会長) 今の意見は自転車も歩行者も自動車も空間を共有するという考えだと思う。現在の案はそれぞれの空間がオーバーラップしないように分けているが、あえて混ぜることで自動車は速度を落としてもらう手法をシェアスペースと言う。ヨーロッパで実現しているところはあるが、日本では例が無い為、利用者がうまく適応してくれるのか？という懸念がある。将来はそういった姿もありえるかと思うが、現在はある程度の分離はいたしかたない。さざんか通りのように車と歩行者が融合している空間もあるので、そういった空間をうまく使い、徐々に増やすという考え方はあるが、駅前広場の計画に取り入れるのは、少し待ったほうが良いと思う。

〈C 案について〉

- 委員) C 案は、実現の可能性は何割程か。駅の北側は狭い道があって実際は通れるが標示は袋小路とされている。駅前が通れないと他に影響するので C 案はどのような経緯で提案されて、実現したらどうなるのか知りたい。例えば駅の北側に別の道をつくり、通過する車両はそちらへ、駅前へ向かう車は駅前へという様になれば C 案でもよいが、C 案が単体で検討されることは地元の間は非常に困る。
- ◎会長) C 案で駅前を通過不可にすると、通過交通していた車はどこを通すのかを考えなければいけない。他の道路に大きな影響が出るので、そこをどうするのかという議

論なしにこの案はありえないと思う。C案は、例えばこのような駅前を使い方もあるという提案だと理解している。

- ◎事務局) C案は通過交通を認めない考え方の一例として挙げた。交通量調査でも通過交通が1日1000台程という結果が出ており、どこに通すのかという問題もある。自転車も降りて広場内を歩くことになっているので、町民の理解を得ないといけない。もしC案となった場合は社会実験なども必要になると考えている。今回は駅前広場を交通結節点として位置づけ、通過交通を認めない場合こういった案ができるかということで提案させて頂いた。課題が大きいのは承知している。

#### 〈町並み景観について〉

- 委員) 駅前広場の整備は町並みの美観形成だと思う。駅を降りたときに風情を感じる工夫があるといいと思う。例えば、駅のベンチは、プラスチックなど人工物よりもぬくもりのある素材を使うと違うと思う。電柱も撤去できればいいが、できなければ木のような樹脂を巻くなど、美観の問題を歩道だけでなく、周辺の商店にも啓蒙して大磯の顔をつくってほしい。にぎやかさだけでなく、風情がある大磯らしいにぎわいをつくってほしい。
- ◎会長) 景観の話については次回以降させていただく。いかにデザインするかについては今後の課題として再認識した。
- 委員) 先ほど雨よけの屋根(シェルター)を作るという話があったが、屋根を作れば景色も駅舎も見えなくなる。屋根は便利だが大磯らしい風景が台無しになるのではないか。雨に濡れないことより駅舎が見えるほうが大事だと思うので、景観についても考えてほしい。
- ◎会長) 個々の施設のあるべき形については今後の検討になると思う。

#### 〈ロータリー内の交通について〉

- 委員) 東から西へ通る自動車はロータリー南側を真っ直ぐ通行できるが、西から東に通る場合はロータリーの北側を回る必要がある。ロータリー内に待機バスが1台停まり、もう1台バスが来ると動きができない。そのような状態で、西側から来た自動車がロータリーの北側を回ると混んでしまう。この計画ではロータリーを削るので一本真っ直ぐな道ができるのではないか。現在ロータリー内にバスが4台連なることもある。
- ◎事務局) A案は現況とバス停の位置は同じ。現在、駅前にバスが4台停まっているのは見受けられる。二宮方面から来る自動車は、駅前広場手前の道路が直線でスピードが速いので、減速させる目的もあり左折させている。また、限られたスペースの空間を有効に使いたいという考えがあるので、ロータリー南側を一方通行にすることで一車線分の車道スペースを削減し、ロータリー周辺の車道を少し広くしてバスの転回がしやすいように配慮している。
- ◎会長) 元々ロータリーというのは一方通行なものなので、北側を回すのは自然の事。車の速度について、本来は駅前広場に入る手前で減速することが望ましい。この周辺

は元々30キロ規制であるが、車を減速させる工夫は、広場のさらに手前で実施されることを期待している。

〈議論のまとめ〉

会長) おそらく他に意見もあると思うが、今後頂戴するとして、本日の段階では計画案を出して、ご意見を承ったという事にさせていただきたい。

#### 【議題(5) 旧駐輪場跡地計画】

・ ランズ計画が資料-1 (P5-1~) 旧駐輪場跡地計画を説明。

会長) 旧駐輪場跡地の計画については、今後駅前広場と関連づけて議論することになり、具体的な利用については実案を伴いながらの検討になると思う。現時点での質問、懸念事項があれば伺いたい。

○委員) 現況にある商店についてはどう考えているか。

◎事務局) 今後話し合いがまとまることがあれば商店も含めて検討していく。現段階では確実な話までできないので、将来的にご協力頂ければ、検討していきたい。

○委員) 仮に新しい施設ができた場合にも、今の商店が残る可能性もあるということか。

◎事務局) その可能性もある。

#### 【本日の議論のまとめ】

会長) 事業コンセプトは、若干言葉が足りない部分もあったので表現をブラッシュアップしていきたい。駅前広場周辺の交通は、一方通行や全面的な拡幅は短期的な検討が難しいが、静穏化などについて今後検討していかなければならない。自転車も歩行者も使いやすい動線を確保することが重要になってくる。駅前広場の整備方針は、いただいた意見を反映し、良いものにブラッシュアップして、部会等で成案に向けて検討していきたい。旧駐輪場跡地については、今後更に議論していきたいと思う。

### Ⅲ. その他

〈次回〉

・ 第3回検討会：平成29年12月25日10時から、大磯保健センター2階研修室で行う。

— 以上 —

種 別	名 称	氏名	出欠	備考
学識経験者等	交通工学（国立大学法人東京工業大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学 系 教授 工学博士）	朝倉 康夫	○	
	集客学、集客空間論（東京都市大学 都市生活学部都市生活学科 教授、都 市生活学部学部長 工学博士）	川口 和英	欠	
地元関係者	北本町町内会	出縄 政美	○	区長
	南本町町内会	中村 雅一	○	区長
	茶屋町町内会	鈴木 豊男子	○	区長
	神明町町内会	岩崎 英二	○	区長
	公益社団法人大磯町観光協会	柳田 昌巳	○	副会長
	大磯町商工会	伊藤 廣孝	○	副会長
	NPO 法人大磯ガイドボランティア協会	浅見 和男	○	会長
	大磯港みなとまちづくり協議会	山口 明宏	○	副会長
	大磯市実行委員会	富山 昇	○	
行政関係機関	神奈川県警 大磯警察署	伊澤 浩明	○	交通課長
	神奈川県 県土整備局 平塚土木事務 所 工務部 道路維持課	五十嵐 敬	○	課長
	神奈川県 県土整備局 平塚土木事務 所 計画建築部 まちづくり推進課	向井 潤一郎	○	課長
	大磯町 都市建設部	笹山 隆二	○	部長
	大磯町 政策担当参事	森田 敏幾	○	参事
オブザーバー (駅前広場利 用事業者)	東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社 総務部 企画室	大野 正幸	○	
	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 計画課	露木 輝久	○	課長
	伊豆箱根交通株式会社大磯営業所	木村 充宏	○	所長
	株式会社プリンスホテル 大磯・鎌倉 地区	伊丹 信一郎	○	総支配人
事務局	(株)ランズ計画研究所	3名	○	委託業務受託者
	大磯町 参与（まちづくり）	芝原 靖典	○	
	大磯町 都市建設部 都市計画課	小瀬村 昭 福田 勉 高塚 健太郎	○ ○ ○	課長 係長 主査